

第3回草津市協働のまちづくり・市民参加推進評価委員会議事録

■日時:

令和6年8月28日(水)13時30分～15時30分

■場所:

草津市立市民総合交流センター(キラリエ草津) 402会議室

■出席委員:

乾委員、深川委員、森田委員、四方委員、宮木委員、出呂町委員、井戸田委員、浅見委員、磯山委員、木下委員

■事務局:

【行政】

河合部長、小寺副部長、西山課長、坂居課長補佐、藤原係長、石原主任

■中間支援組織

【(公財)草津市コミュニティ事業団】

福留事務局長、茶木課長、栗田氏、中村氏

【(社福)草津市社会福祉協議会】

秋吉課長、青木副参事

■傍聴者:

無し

1. 開会

【事務局】

それでは、定刻となりましたので、ただいまから、令和6年度第3回草津市協働のまちづくり・市民参加推進評価委員会を開催させていただきます。

本日は、公私共に多忙な中、当委員会に御出席賜り、誠にありがとうございます。

私は、本日の司会を務めさせていただきます、まちづくり協働課の西山と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、当委員会につきましては、草津市市民参加条例第9条の規定に基づき、傍聴が可能となっております。

委員会の会議録につきましては、後日公表させていただきますので、記録のために委員会とワークショップの様子を録音しておりますので改めて御了承ください。

先にお伝えしますと、当日の配布資料がございますので御覧ください。

資料3と4は皆様のお手元がございますか。次第を差し替えさせていただきます。

それでは次第2の報告事項に移らせていただきます。ここからの進行につきましては、委員長にお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

【委員長】

こんにちは。暑さが厳しくなってだいぶだるくなっているかもしれませんが、今日はここにも書いていますけども、特に後半、皆さんの意見をいただくというワークショップをする予定になっています。

ワークショップの詳しい説明は後ほど行うとして、全体の話し合い(委員会)は、大きく2つに分かれておりまして、元々第3次計画の策定というのが大きな目標としてあります。そのときに第3次計画のねらいとして、市民協働や市民参加というところで、今どのような問題があるか、あるいは委員の皆さんがどう感じているのかというお話を前回いろいろ出していただきました。

前回までに出していただいた問題点を事務局の方で整理してくれます。これは皆さんの手元にある、郵送されている資料です。

もう一つ、草津の資源から各地域にどんなプラスがあるのか、あるいはどんな問題に直面しているのか、それぞれの地域ごとの話の整理をしないと、当然委員の皆様はそれぞれ自分の周りのことは分かるけれど、草津の他のところのことは分からないというの也有ります。そっちの問題は全般的にまちづくり協働課とそれからコミュニティ事業団、社会福祉協議会がよく知っているから、そういうところの知恵を集めて整理してくれていきますので、どんな資源や問題があるのかを整理してください。

それでは、かなり頑張ってくださいでギリギリになりましたので、今日の資料として出てきています。そのあたりの話をまず報告していただいて共有します。

形があってそういうプラスの側面、あるいはそんな問題をどうやったらブレイクスルーできるのか、次に進めていくことができるのか、今何が問題で今後どうしたらいいのかという話を語り合ってもらいます。ですから、一応その第3次計画に向かってなるべく具体的な話、それぞれの方が草津の中で生活したり活動したりしていく中で、それを整理するために過程の中で出していただきます。それを私たちが受け止めて整理していくという形で、計画を策定なるべく実のあるものにしていくという進め方でいきたいと考えています。

2. 報告事項

【委員長】

今日の大きな狙いと名目を御理解いただいた上で、皆さん見ていただいているとは思いますが、まず資料について事務局の方で説明していただきます。

【事務局】

はい、ありがとうございます。それでは資料1について御報告させていただきます。
(資料1、2、3について説明)

【委員長】

ありがとうございます。ざっと報告されただけなので、いろいろな意見があると思います。この後、話し合いをしていきますので、そのなかで全部出していただければいいかと思います。

それぞれ確認しておくこととか、話の中でわかりにくいところがあれば、出していただけますか。

よろしいですかね。先ほどお伝えしましたように、話し合いの時間がありますので、その中で今の話も含めて話していただきます。今から話し合ってもらうのは皆さん方が言ってくださった話あるいはコミュニティ事業団とまちづくり協働課、社会福祉協議会が話し合っ、今の草津の現状はこうだというのをベースにした話の中で、次はどうしたらいいのかということを、今の話も含めて出していただければいいかなと思います。

【副委員長】

御説明ありがとうございます。

ちょっと内容の話ではなく、位置付けの話を確認したくて、次回第3次計画のイメージが出てくと思うのですが、委員さんからの意見をまとめるというのは骨子とか内容にどのような側面が入ってくることを想定しているのですか。

【事務局】

はい、ありがとうございます。副委員長の今後の予定も含めての御質問ですが、次第の方を御覧いただきたいと思います。

次第の2ページ目のところに計画策定スケジュールがございまして、今日は第3回8月28日ですが、この後、勉強会、第4回と続きまして11月26日の第5回で計画案の確定というのを予定しております。

今、委員の皆様には計画の策定を諮問をお願いしているところですが、今日の時点でその計画の全体像が見えない、どこが議論されているのかともししたら疑問に思われるかもしれませんが、全く今までにない視点を第3次の計画に取り入れたいということで、課題と現状のコアになる部分を皆様に議論していただいているところです。

今回お話いただいた内容、エッセンスを第3次にできるだけ盛り込んで草津市協働の取り組み

が1歩でも2歩でも前に進むようにしていきたいと考えていますので、本日の議論は計画のコア部分になるというふうに御理解いただいて、皆さん御協力をお願いしたいと思います。

【副委員長】

御説明ありがとうございます。そしたらこれはコアになっていくというようなことであれば、協働についてというところでも、本当に困るのは市や中間支援組織であるということは多分もう少し整理が必要で、次とかそこでチェックしていくというスケジュールでよろしいでしょうか。

【事務局】

はい、そのようなスケジュール感でお願いします。

【副委員長】

ありがとうございます。

【委員長】

他はよろしいですか。今みたいな大きなこれからの進め方の話や、この委員会が出た話、皆さん方が実感しているような話を基にしながら進めていきます。

第3次案に入る話は、当然草津全体に関わる話として始めて行きます。でもスタートはそれぞれの団体だったり市民活動だったりをテーマに、そういう意味で皆さん方には活発な議論を行っていただきたいと思います。

3. 協議事項

【委員長】

それではグループワークに行きましょう。グループワークの方は副委員長にお任せいたします。

【副委員長】

改めて深川の方からグループの意見交換について説明させていただきます。資料につきましては、事務局から配布される資料4とこちらでございます。

パワーポイントを御覧いただければと思います。若干早く進んでおりますが10分くらいで意見交換を進めていけたらと思います。

まず意見交換の進め方ですが、話し合いを35分、そのあとに発表で50分から60分を考えております。委員長からございましたように、前回現状と課題を出し合いましたので、それを踏まえて

解決の方向性を考えるということをテーマにしております。

具体的に何を話すのかということですが、今委員の皆様が活動の中で見聞きしている課題や、こうやったらいいのではないかということの解決事例あるいは有効な取り組みを出してもらうことが一つ。もう一つは、大事な考え方や視点を出し合うということで、例えば、まち協がただ仕事として若い世代に活動に参加してねっただけではなくて、もう少し若い世代の気持ちを汲み取ってニーズに合った取り組みをする、そういったことって大事ですよっただけを出し合っていたきたいと思います。

今4グループございますので、各グループで出た意見を全体で3つずつぐらい発表するっていうのが大きな流れになります。

ここが大事なところですけども委員長とともに皆さんからいただいた意見の中で特に話したいなというところをまとめたものがこちらになります。

見えにくいと思いますのでお手元のこちらを御覧ください。グループ1には、町内会等への市民参加の促進ということで、去年はやはりマイナスイメージというのはどうしてもあるよねというところを払拭しながら、若い人たちの参加を促すにはという問いかけをしました。

グループ2では、私個人の動きのバックアップということで、どちらかというと支援組織によるバックアップがイメージされると思いますが、お母さんとか若い世代の私発の想いや問題意識から始まる有志グループがあると思いますので、そういう意味では地域の力としていく、地域の力がないという課題解決に結びつけていく。そういうあり方ができないかなということで、これに対する案をいただきたいと思います。

グループ3では、まちづくりと福祉の融合ということで今日はコミュニティ事業団さんも社協さんもういらっやっております。だから、まちづくりと福祉の融合というのを、もっと資源や人材の運営、情報面で図りながら課題解決に繋げていくにはどうしたらいいかというのが三つ目です。

グループ4では、まち協に対する理解の促進ということで、ここにいらっやる皆さんはまち協の役割とか位置付けというのは重々承知されている方も多いと思いますが、まだまだまち協の役割の位置付け、それを市民にどう伝えたらいいのかということが課題になっているということで、これに対する意見をいただけたらなと思っております。

御質問などございましたらお願いします。

【委員長】

それではあとで話したいところがあれば、分かれてくださって構いません。それでは深川さんの音頭でやってもらいます。ただ、これ喋ったらこっちも喋りたいなという話があるかもしれません。時間がないのでそうやってあれこれ喋るのは難しいので、どこかに集中して喋ってもらいます。でもそれ以外

の話は聞かないのではなく、後でまたメールでもお手紙でもポストイットに書いてもらうとか、そういうふうに寄せてもらう形で埋め合わせしたいと思います。

ですから喋りたいのは全部考えていただいて結構ですけれども、とりあえず4グループに分かれてそれぞれで伝えあってもらう。事務局のコミュニティ事業団さん、社協さん、市役所さんも参加者として入ってもらいます。

その応答になったらつまらない。できないという話ばかりしても仕方ないので、皆さん草津市に関わる人として引き続きお願いします。少しだけ説明させてください。

町内会の話は前回も出ていましたし、これまでも出ていました。書く前から既にマイナスのイメージがあり、現実問題でいうと特に若い世代にそういう部分があります。

なぜかという話は当然考えてもらったうえで、どうしたら少しでもそれを乗り越えられるのだろうというところに知恵を絞ってもらいたいと思います。

2番目は、草津の宝として、これも先ほどもありましたけれども、地域レベルや学区レベルなど、あるいはそのぐらいのサイズ感で市民活動というのは市民の人たちが自由に自分たちにとって課題だと思うところを集めて取り組むことはかなり盛んに行われています。

ですから学区の支援としても、そういう市民の人たちの動きがあるというところがあります。でもそれは先ほどの資料でいうABCDという学区で束ねられたものです。

草津は全部で14学区あります。だからこのあり方を何とかして草津のいろんなところの地域に広げる必要があるだろうかそうならいいよねっていう話を考えてもらいたいと思います。

当然そうするとそのときにまち協が一体そこどうい関係にあるのか、どう動いたらいいのか、あるいはその市民の人たちはどうまち協を意識して動いたらいいのかという問題も入ってきます。

これは先ほどまちづくりと福祉のところで言っていた、それぞれ興味関心が違うから別々に動いて当たり前ですが、地域資源を考えると、例えば防災とお年寄りの問題だという話は必ずセットになってくるはずです。地域の課題ということになると、やはりどこかで協力関係や、お互いに了解しているような関係が必要ではないかなという気が私は個人的な意見でしています。

そういう意味では草津も結構良い資源が十分いろんなところであって、地域協働のまちづくり活動では、地域活性化だとか、子育てだとかあるいは環境問題だとか、いろんな活動に取り組んでいます。一方で地域福祉活動も結構いろいろなものがあります。

例えば、カフェがあつたり地域サロンがあつたり、あるいは助け合い運営駐車場や福祉医療を支えるための活動だとか、いろんなものがあります。ただそれが同じ地域の中でちゃんとうまくその人材が別に関心が違うところを合わせるわけではないが、了解し合って協力できるような関係ができるのかどうかというところをもう一度見直してみてください。

そういう地域の人材に限られるという話が先ほどありましたけれど、2割の人が草津で頑張っている

人でした。その2割の人たちが福祉のまちづくりにいるとすると、そこはやっぱり両方互いに了解してみ、それを広げる活動をしていくことが必要なのではないかという問題について答えをください。

もう一つ、これは最後の問いですが、前回皆さん方がまち協って何って端的に言っていましたよね。まちづくり協議会がよくわからない、多くの人にとってそうかもしれない。頑張っている人やよくわかってる人もいらっしゃるが。

まとめるものもありますが、本当は町内会や自治会によって構成されているはずのまちづくり協議会が、煩わしい仕事が大変だから脱退するということが発生しているという話は、やっぱりちゃんとまちづくり協議会の動きと、地域課題と私達の暮らしが繋がっている必要があるのではなかろうかという話があつてこれです。

だから町内会と自治会の関係や、市民活動との関係というあたりの話をどうクリアにさせていただいたとか、どう伝えていったらいいのかということです。中身としてはそんなことを考えていますけれども、あえてこの漠然とした言葉になっているのは、ここから自由に皆さんがこれに関わる話をどんどん膨らましてもらって結構です。

草津の課題ですからどんどん出していってください。それをワイワイガヤガヤやってもらおうということでこれを進めていってもらえればいいと思います。

【副委員長】

委員長ありがとうございます。ということで今ちょっと聞いていただいて、ここで話したらいいなという希望を踏まえましてまたシャッフルいたしますので、どれが良いかなんていうことを考えてください。良い問いかけが集まったので多分全部に入りたいと思いますけど、どれか一つに決めてください。

進め方については割と自由にしております。お手元に模造紙とポストイットがあるのでですけども、それに考えていただいたものを書いていってください。

例えば老上学区のハロウィンイベントの話ですと、子育て世代が中心となって企画していて、まち協が学区レベルの助成制度を受けてサポートしていますよね。それだけではなく、地域とその企画について事業団もサポートしている。だからこれはすごく有効な事例ですよということ、これを1枚に書いていただいてもいいですけども、何らか決定するとこういう落とし込みになるとこれの大事な視点というのは、子育て世代のやりたい思いを支えるまち協の姿勢っていうのは、多分いろんな地域でも重要になるということで、こういうふうな書き方をしたのですが、これは一例ですのでちょっと変えていただきたいと思います。

少し余裕がありますが、大体35分でこのように進めたいと思っています。

まず解決策や方向性を出すということで20分時間をとっておりますので、ポストイットに名前を書い

ていただき、1人作業でこういうことが大事だなんていうことを書いていただいて、そのあと1人ずつ理由を含めて発表してポストイットを模造紙に貼っていただきます。

つまり1人ずつ全部のカードを出して行って、全体で共有するグループで共有するってことです。そして全部大事な意見ですが、3番目にグループで出てきた大事な意見を、ぜひこれ絶対紹介したい、まとめたいというものを一つ二つ丸でくくってください。

意見に対して丸がついても、この内容全体についてもいいので、こういう形で示して行って、最後は各グループのどなたかが3分ぐらいでこの大事なものを中心に語っていただくということです。

ちょっと説明が長くなりましたが、ここまでで質問とかありますか。

各グループに事務局の杜協さんだったりコミュニティ事業団さんであったり市が入りますので、1回事務局の入られる方がグループに入ってもらって、その後委員さんが好きなテーブルについてもらう形にしたいと思います。

<事務局移動>

では委員さん、自分の好きなテーマのところへ移動してください。お願いいたします。

<委員移動>

委員の皆さんはお互い知っているでしょうけど、事務局もいるので簡単な自己紹介だけしてから始めましょうか。

<グループワーク 35分間>

【副委員長】

それでは各グループ発表の時間に移りたいと思います。ここからは耳を傾ける時間にしてもらおうと思います。

それでは1, 2, 3, 4の順で行きたいと思います。全部ではなく3分ずつで言いたいところを発表してください。3分経ったなと思ったら時計をお持ちの方がとんとんと叩いてください。

他グループの皆さんは、立っていただいてその周りに集まってもらっていいですか。次にグループ2、グループ3と続けたいと思います。それでは皆さん聞いてください。

グループ1【J 委員】

ではグループ1の発表をさせていただきます。町内会の課題としては、役員が大変、仕事が大変ということで脱退される方が出てくるというマイナスイメージに対してどうしていくかという一つの方法としては、まず組織を見直して軽減化できる仕事は軽減化する。また、役員も輪番制にしたり、逆に公募にしたりとか、役員がしんどいということにならないようにしていくのはどうか考えました。

また実際に町内会を活性化していくためには、楽しいイベント行事をしていかなければなりません。しかもそれも役員にお任せではなく、やりたい人を公募して有志を募ったり、必要があれば立命館に学生ボランティアをお願いするなど、合理化しながら、例えば防災訓練に運動会を取り入れて楽しい行事にしたりですとか、そのように合理化しつつインパクトのあるイベントをしなければなりません。

キッチンカーなんかも呼んではどうかという意見もありましたが、参加者が少ないとキッチンカーも来てもらえないと思うので、市の方でそのようなことを取り持ってもらえる仕組みがあつたらいいなと思いました。

やはり最終的にはやはり若い人たちに来てもらおうと思ったら、子どもを真ん中に据えて行事に取り組む必要があるということで、子育て世代が参加できるような行事であつたり、それから子どもと高齢者が交流する機会があつたりとか、子育てサロンであつたり、または世代別に若者は若者、年配の方は年配の方というように、複数の行事を行いながら、若者や、やる気のある人、また外の力も借りながらやっていくのがいいのではないかと考えました。

最後に出てきたのは、若者にどんどん任せるというような雰囲気を作っていかなければならないということでまとまりました。以上です。

グループ2【G 委員】

グループ2は私個人の動きのバックアップです。まず、活動している人たちが、どういう活動をしているかというところを周知する必要があるという意見が出ました。同じ分野の活動をしている人同士がお互いを知らないというケースがあり、非常に勿体ないので、やはりそういう活動をしている人と同じ思いをしている人が交流するような場を作っていかないと市民活動は広がっていかないと思います。

また、キラリエサポーターもなかなかコミュニティ事業団に相談に行けないという声もあるので、市や中間支援組織の支援に関する周知も大事ということがわかりました。

また、やはり活動をする上で、資金は必要です。しかしながら、交付金や助成金をもらう際の申請やシステムはかなり複雑であり、もう少し簡略化したもので少額の交付金があれば有難いという意見がありました。

最後に、グループ1でもありましたが、市民活動においても、声の大きい高齢の方がいるという話

が Outcome、そういう人は黙って若い人を見守るというような組織の雰囲気づくりが大切という意見が Outcome しました。

【副委員長】

このグループで印象的だったのは、市の方で「担い手育成」であったり、「人材発掘」という言葉が使われていますが、人材発掘や担い手と目される重さみたいな話がありまして、その言葉を少し違う言葉に置き換えるかどうかという話がありました。

グループ3【事業団職員】

ちょっといろんな話が出てまとまりが悪いですが、まず一番初めにまちづくりと福祉という言葉に引っ張られ過ぎるなというのがありまして、行政の区分的に絶対に必要だというのはわかるのですが、まずその考え方を大前提としてはあまり連携しなければならないとか、福祉は福祉、まちづくりはまちづくりという前提をちょっとだけ取り外して考えてみようかなということで皆さんに意見を出していきました。

まず福祉とまちづくりが会合するための入口編みたいなところと、それに繋がっていく編みたいなところで分かれていますので、福祉とまちづくりに関しては、能動的にやるのが基本だということで、まず地域に出会いの場がないかなという話が出ましたので、それが老上のハロウィンのような仕組みであったりとか、福祉施設に子どもたちが宿泊体験に行ったり、1日施設長を体験したりとか、自治会を街歩きするRPGみたいなものとか、地域福祉を体験するゲームが最近はすごいコンテンツとしてあるので、それをみんなで体験して、まずは福祉の人間とまちづくりによる人間が会合の場があればいいなと思いました。それをサポートする市や中間支援組織も、仕組みとして同じフロアで基本的に業務のことを話したり、両方で連携してサポートをする必要があると考えました。その結果どうなっていくかというと、例えば災害などの地域課題においても、元々顔の見える関係ができていれば何かしら隣の家などの状況を把握しようかなという意識が芽生えたり、それが高齢者の見守りにも繋がっていくと思います。それが「助けて」と言える土壌作り、要は自分の家の話は自分で面倒を見るという空気が少しでも緩和していくというように皆さんで合意を取れたところで終わりました。

グループ4【事務局職員】

グループ4のテーマはまち協に対する理解促進ということで、少し難しいテーマという印象でした。

まずまちづくり協議会は基本的に町内会が組織しているのかなと思います。そこをベースにするけれども、まずまちづくり協議会の理解促進に向けてどういことをやっていくのかということで実際津南学区会長の四方委員からも意見がありましたのが、まちづくり協議会が変わっていくというキーワード

ードが出てまいりました。どういうふうに変わっていくのかと言いますと、人をどう巻き込んでいるのかという視点で規模を広げていくということです。その中で、いろいろなイベントを仕掛ける中で、興味関心に基づいて、先ほどの資料で言うと、参画層と準参画層と参加者層とありましたが、活動を広げてその中で準参画層をどれだけ広げていくのかというところで、そういう活動を通してまちづくり協議会の理解促進をしていくということを一つ一つ積み重ねていくことが重要かと思います。「巻き込む」「外部の組織」「学生」等のキーワードが出てまいりました。

そういうイベントをいろいろやっていくとなると、負担感が出てくるので、イベントの分散化や、イベントの一部について、この指とまれでやりたいという人をどのように巻き込んで行くかということが重要になります。それを中心となってやっていくキーパーソンをどのようにして見つけていくのか、巻き込んでいくのかというところが重要であると思いますけど、そういう活動を何度も実施する中で生まれてくるのではないかと思います。

もう一つは、地域まちづくりセンターというのがあります。昔の公民館ではなくて、ここに行けば何か形として実現するというような拠点化していくという部分も重要なということと、拠点の立地条件の問題もありまして、そこにやっぱりまめバスとか公共交通で繋げていくっていうところの仕組みが必要かと思います。最終的に行き着いたのはこういう活動を充足的に広げつつ、人をいっぱい巻き込んで、このような好事例については、誰でも見える映像で伝えとか、SNSなどでどんどん発信していくことで、理解促進に努めていきたいなというふうに考えております。

【委員長】

皆さんにお話しいただいたことをホワイトボードにまとめました。ただ、全て言えているはずはないので、何よりもそこで語られた話は再度事務局の方で集約して、整理整頓してもらいます。

では他のグループの方もこのテーマに意見を言いたいという話があると思います。少し時間を取りますので、是非ポストイットに書いていただいて、前のホワイトボードに貼りに来てください。

<ポストイット記入>

ありがとうございました。少し短めではございましたが、皆様から御意見をいただきました。大きくはこの4つのテーマの中で次のステップを皆様に考えていただきました。次回はこれを生かしながら具体的な面で次の一步が第3次計画案に少し書かれて、ここがポイントだとわかるようにしたうえで好事例が紹介されることになっております。

それでは事務局にお返しします。

4. 閉会

【事務局】

本日テーマを4つ議論していただきまして、次の3次計画に載せていくべきキーワードが出てきたなと思っております。

またいろんな点で課題はたくさんありますけども、資料3でありましたように、協働のまちづくりは参画者が中心になると思いますが、関心があって活動に参加している人をどう参画者にしていくかがキーワードかなと思って聞いておりました。

今日頂いた意見を参考に、次の計画を進めさせていただきたいと思います。

また、次回の委員会は10月8日ですけれども、計画の策定に向けまして、9月10日に勉強会の開催を予定しておりますことから、出席いただける方につきましては積極的に御出席いただきたいという風に考えています。

それではこれをもちまして、令和6年度第3回草津市協働のまちづくり・市民参加評価委員会を終了とさせていただきます。

本日はどうもありがとうございました。